

## 第 27 回日本木材学会地域学術振興賞

「北海道主要造林樹種の材質調査による地域の学術振興と地域材利用促進への貢献」

安久津 久（道総研林産試験場）

この度は、日本木材学会地域学術振興賞という名誉ある賞をいただき、光栄に存じます。ご推薦またはご選考に当たられた先生方には深く感謝申し上げます。

これまで、研究開発にご指導ご協力いただいた諸先生方、森林総合研究所、林木育種センター、道総研林業試験場の研究員の皆様、職場の方々に感謝するとともに、喜びを分かち合いたいと思います。

私は昭和 59 年に北海道立林産試験場の林産化学部繊維化学科に配属され、木質粗飼料に関する研究に 4 年ほど携わりました。その後、昭和 63 から利用部材質科に配属になり、平成 2 年には森林総合研究所材質研究室で軟 X 線デンシトメトリ、各種材質試験の研修を受け、その後 20 年間、本格的に北海道の造林樹種の材質調査に向き合うことになりました。当時、北海道の育種種苗は事業用苗に比べ成長や諸被害抵抗性での優位性はすでに明らかになっており、その次のステップ「材質はどうか」を明らかにする林分が揃いつつありました。それらを対象として、道総研林業試験場や他の研究機関、行政機関と協力して北海道の主要造林樹種の材質研究に取り組むことができました。これまでに手がけた研究開発の概要を以下に紹介し、お礼に代えさせていただきます。

北海道のスギ造林は道南地方に集中しています。造林は北海道直営のスギ採種園産の育種種苗を用いています。この採種園の精英樹クローンの材質と次代検定林の生長量を合わせた同時選抜を行い、選抜した上位 30 クローン（5 割程度の選抜）で設計したミニチュア採種園を造成しました。北海道では材質指標を活かした初めての採種園でした。

グイマツ雑種 F<sub>1</sub>（以下 F<sub>1</sub>）は、カラマツ造林の欠点である野ねずみの被害を避けるために改良された品種です。材質調査では強度に優れ、ねじれの少ない F<sub>1</sub> 品種の創出に貢献したほか、市場にまだ出回っていない F<sub>1</sub> 材を紹介するため、民間企業と共同で書庫、パソコンデスクなどの製品を試作し、様々なイベントに出展し、F<sub>1</sub> 材を PR しました。現在、F<sub>1</sub> は人気のある造林樹種で更新面積も年 600ha と安定しています。

トドマツは、精英樹で密度や強度の劣るものを 2~3 割程度排除（選抜）した採種園の体質改善を行うことで、次世代の造林木の材質が天然材に比べて遜色のないことがわかりました。また、トドマツは需給地域区分が設けられていますが、多雪地（美唄）と寡雪地（厚岸）の検定林の材質調査から、繊維傾斜度（ねじれ）や材密度で地域区分との交互作用があり、成長や諸被害抵抗性のみならず、材質においてもトドマツの需給地域区分の必要性を明らかにしました。

今回の受賞は、これからも地域の森林資源の活用促進に貢献するようとの叱咤激励だと思っております。今後とも、引き続き木材学会の皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願いいたします。